

「宮っこ 子育て・子育て応援プラン」改定に係るニーズ調査結果の概要について  
【前回調査（平成20年度実施）との比較】

1. 調査対象者

対象者	調査数
就学前児童（0歳～5歳）の保護者	4,450人
小学校児童（1学年～6学年）の保護者	2,060人
青少年（15歳～34歳）	2,110人
ひとり親家庭世帯（母子・父子・寡婦）	1,700人
事業所（従業員10人以上）	1,700事業所

2. 調査期間

平成25年10月28日～11月27日

3. 回収数・回収率

対象者	配布数	回収数	回収率
就学前児童の保護者	4,450人	2,674人	60.1%
小学校児童の保護者	2,060人	997人	48.4%
青少年	2,110人	654人	31.0%
ひとり親家庭世帯	1,700人	572人	33.6%
事業所	1,700事業所	304事業所	17.9%

【参考】

○ ニーズ調査以外に実施した調査について

教育・保育事業等の現在の利用実態を把握するために、幼稚園等を利用する保護者の就労状況等について調査を実施し、ニーズ調査と併せて需要の分析を行うための基礎資料とする。

No	①調査名／②対象者	調査数	回収数	回収率	実施時期
1	①幼稚園における保護者の就労状況等の調査 ②宇都宮市に在住し、幼稚園を利用している3・4歳児の子どもがいる保護者	6,407人 (※)	4,963人	77.5%	平成25年 11月
2	①放課後児童クラブに関するアンケート調査 ②小学生1～4年生、就学前児童（平成26年度就学予定）の保護者	23,550人	20,068人	85.2%	平成25年 10月
3	①学習と生活についてのアンケート ②市内の全市立小学校及び中学校の児童生徒				

※平成25年5月1日現在の3・4歳児在園児数

○ 平成20年度に実施した調査の概要

調査対象者及び回収数等

対象者	調査数	回収数	回収率
就学前児童の保護者	2,400人	1,145人	47.7%
小学校児童の保護者	2,400人	1,147人	47.8%
青少年	1,000人	252人	25.2%
ひとり親家庭世帯	1,000人	345人	34.5%
事業所	1,000事業所	294事業所	29.4%

## 《就学前・小学生》

### 1. 理想の子どもの数と予定の子どもの数

#### (1) 理想の子どもの数

項目	平成20年度		平成25年度	
	就学前	小学生	就学前	小学生
1人	0.5%	2.8%	0.9%	1.6%
2人	35.8%	34.3%	<b>45.0%</b>	<b>41.6%</b>
3人	<b>52.9%</b>	<b>49.1%</b>	<b>46.9%</b>	<b>46.0%</b>
4人以上	6.5%	7.1%	3.2%	4.2%

#### (2) 予定の子どもの数

項目	平成20年度		平成25年度	
	就学前	小学生	就学前	小学生
1人	6.9%	12.5%	9.6%	16.9%
2人	<b>59.0%</b>	<b>55.4%</b>	<b>59.2%</b>	<b>55.1%</b>
3人	21.6%	20.3%	17.7%	17.9%
4人以上	2.2%	2.8%	1.5%	1.4%

#### (3) 理想よりも予定の子どもの数が少ない理由（上位3つ）（就学前）

##### 【平成20年度調査】

- ・子どもの教育にお金がかかるから（33.0%）
- ・教育以外にもお金がかかるから（31.0%）
- ・出産・育児の心理的・肉体的負担（19.3%）

##### 【平成25年度調査】

- ・子どもの教育にお金がかかるから（26.9%）
- ・教育以外にもお金がかかるから（25.1%）
- ・出産・育児の心理的・肉体的負担（19.1%）

○理想の子どもの数は「3人」が最も多いが、予定の子どもの数は「2人」が最も多くなっている。この傾向は、平成20年度の調査結果と比較して変化が見られない。

○平成20年度の調査と比較し、理想の子どもの数の「2人」が増えている。

○予定の子どもの数が理想の子どもの数よりも少ない理由は、「子どもを育てるにはお金がかかる」、「出産・育児の心理的・肉体的負担が大きい」が主なものである。平成20年度の調査結果と比較して変化が見られない。

### 2. 育児休業制度について（未就学児）

#### (1) 育児休業を取得したか

項目	平成20年度		平成25年度	
	母親	父親	母親	父親
取得した	19.1%	0.7%	31.2%	2.6%

○平成20年度と平成25年度の調査では、質問内容や回答項目に違いがあるため、単純な比較はできないが、育児休業の取得は、増加傾向にあるようだ。

### 3. 子育てに関して不安感や負担感を感じるか

項目	平成20年度		平成25年度	
	就学前	小学生	就学前	小学生
非常に不安や負担を感じる	<b>8.6%</b>	<b>13.2%</b>	<b>7.8%</b>	<b>9.8%</b>
何となく不安や負担を感じる	<b>47.2%</b>	<b>41.8%</b>	<b>50.7%</b>	<b>43.2%</b>
あまり不安や負担は感じない	27.3%	28.7%	30.2%	30.2%
まったく感じない	3.3%	5.3%	2.0%	3.8%
なんともいえない	13.4%	10.1%	8.6%	12.3%

○5割以上の方が、子育てに関して不安感や負担感を感じている。平成20年度の調査結果と比較すると、「非常に不安や負担を感じる」の割合が低くなり、「何となく感じる」の割合が増えている。

### 4. イライラして子どもにつらくあたった経験

項目	平成20年度		平成25年度	
	就学前	小学生	就学前	小学生
ヒステリックに怒鳴った	<b>72.5%</b>	75.4%	<b>64.7%</b>	76.7%
たたいた	<b>45.9%</b>	<b>44.6%</b>	<b>33.4%</b>	<b>41.6%</b>
部屋(押入れ)に閉じ込めた	<b>9.7%</b>	<b>5.9%</b>	<b>5.9%</b>	<b>5.5%</b>
家の外に出した	<b>13.6%</b>	<b>19.1%</b>	<b>7.4%</b>	<b>18.6%</b>
食事を抜いた	<b>1.0%</b>	<b>1.6%</b>	<b>0.3%</b>	<b>1.2%</b>
相手をしなかった(無視した)	<b>34.6%</b>	<b>28.1%</b>	<b>30.4%</b>	<b>29.3%</b>
言葉で傷つけた	<b>29.7%</b>	<b>44.5%</b>	<b>22.7%</b>	<b>39.1%</b>
その他	1.9%	2.2%	2.1%	2.6%
つらくあたったことはない	12.8%	9.3%	20.3%	8.7%
いらいらしたことはない	1.0%	1.0%	3.0%	0.3%

○ほとんどの人が、子どもにつらくあたった経験がある。平成20年度の調査結果と比較すると、就学前児童の保護者については、子どもにつらくあたった経験の多くの項目で、少しずつ割合が低くなっており、小学生の保護者については大きな変化はないが、その中には「言葉で傷つけた」が約5%低くなった。

## 5. 子どもの外出の際に困ること

項目	平成20年度		平成25年度	
	就学前	小学生	就学前	小学生
歩道や信号がない通りが多い	<b>16.9%</b>	23.8%	<b>18.9%</b>	23.4%
歩道の段差などが通行の妨げに	<b>30.0%</b>	<b>20.3%</b>	<b>21.8%</b>	<b>16.9%</b>
交通機関や建物の配慮がされていない	19.7%	12.2%	16.1%	8.1%
トイレが親子利用に配慮されていない	33.9%	10.3%	29.5%	10.2%
授乳する場所や必要な施設がない	<b>15.6%</b>	6.2%	<b>16.7%</b>	5.2%
小さな子どもとの食事の場所がない	27.8%	14.0%	26.1%	13.1%
買物などの合間に遊ばせる場がない	<b>22.0%</b>	<b>17.9%</b>	<b>22.7%</b>	<b>21.8%</b>
緑や広い歩道が少ない	13.5%	18.9%	10.5%	14.5%
暗い通りなどが多い	<b>14.8%</b>	<b>29.9%</b>	<b>14.4%</b>	<b>33.3%</b>
周囲が子ども連れを迷惑そうに見る	<b>5.6%</b>	6.5%	<b>6.2%</b>	6.1%
困っている時に手を貸してくれない	10.9%	10.3%	8.2%	7.7%
その他	4.5%	4.1%	4.1%	3.9%
特に困っていることはない	7.4%	17.3%	10.1%	18.1%

○平成20年度の調査結果と比較して、就学前児童の保護者では、「歩道や信号がない通りが多い」、「授乳する場所や必要な施設がない」、「買物などの合間に遊ばせる場がない」、「周囲が子ども連れを迷惑そうに見る」の割合が高くなっている。

小学生の保護者では、「買物などの合間に遊ばせる場がない」「暗い通りなどが多い」の割合が高くなっている。

## 6. 「仕事時間」と「生活時間」の優先度（両親が共働きの世帯）

### (1) 希望

項目	平成20年度		平成25年度	
	就学前	小学生	就学前	小学生
仕事時間を優先	5.5%	9.7%	5.8%	8.6%
家事(育児)時間を優先	<b>74.0%</b>	<b>68.8%</b>	<b>66.3%</b>	<b>65.0%</b>
プライベート時間を優先	16.0%	16.5%	<b>24.9%</b>	<b>23.5%</b>

### (2) 現実

項目	平成20年度		平成25年度	
	就学前	小学生	就学前	小学生
仕事時間を優先	<b>71.5%</b>	<b>72.2%</b>	<b>33.1%</b>	<b>35.2%</b>
家事(育児)時間を優先	23.5%	21.6%	63.9%	62.0%
プライベート時間を優先	0.5%	0.0%	1.3%	1.1%

○平成20年度の調査結果と比較して、「仕事時間」よりも「家事(育児)時間」や「プライベート時間」を優先する希望があるが、現実には「仕事時間」を優先する割合が高くなっている傾向は同じだが、現実には「家事(育児)時間」を優先する割合が高くなっており、希望と現実が近くなっているが、「プライベート時間」については希望と現実乖離がある。

## 7. 子育てに関して行政に期待すること

項目	平成20年度		平成25年度	
	就学前	小学生	就学前	小学生
親子が安心して集まれる身近な場	39.7%	32.6%	52.9%	43.0%
子連れでも出かけやすく楽しめる場所	74.9%	51.3%	62.1%	48.3%
子育てについて相談・情報の得られる場	19.7%	18.6%	24.8%	19.2%
保育所を増やして欲しい	29.3%	—	25.7%	—
幼稚園を増やして欲しい	6.8%	—	8.2%	—
認定こども園を増やして欲しい	11.3%	—	16.7%	—
専業主婦でも利用できる保育サービス	46.7%	—	37.6%	—
安心して医療機関にかかれる体制	35.1%	41.7%	33.7%	36.8%
多子世帯の優先入居など住宅面の配慮	7.7%	7.0%	5.0%	5.1%
残業時間短縮など職場環境の改善	33.4%	30.3%	37.4%	31.7%
子育てについて学べる機会	13.0%	9.9%	17.9%	11.6%
放課後子ども教室	—	36.3%	—	30.1%
障がいのある子でも安心できる環境	13.6%	15.9%	16.6%	15.4%
その他	9.3%	9.2%	7.1%	6.5%

○平成20年度の調査結果と比較して、就学前児童と小学生の保護者に共通して、「親子が安心して集まれる身近な場」、「子育てについて相談・情報の得られる場」、「残業時間短縮など職場環境の改善」、「子育てについて学べる機会」を望む割合が高くなっている。就学前児童の保護者では、「幼稚園や認定こども園を増やして欲しい」の割合が高くなっている。

## 《青少年》

### 1. 自由な時間に気軽に集まれ、自由に遊んだり活動したりできる居場所の希望（15～17歳）

項目	平成20年度	平成25年度
希望する人	61.5%	69.8%

### 2. 居場所でどんなことがしたいか（15～17歳）

項目	平成20年度	平成25年度
友だちとおしゃべりしたり、くつろいだりしたい	<b>73.3%</b>	<b>80.8%</b>
マンガや情報誌を読みたい	32.0%	26.4%
テレビやビデオを見たりしたい	22.7%	20.2%
インターネットやTVゲームがしたい	28.0%	29.3%
自習やグループ学習をしたい	<b>29.3%</b>	<b>40.4%</b>
スポーツやダンス等の練習がしたい	30.7%	25.0%
バンドや演劇、合唱等の練習がしたい	13.3%	13.5%
お菓子や料理づくりがしたい	14.7%	16.3%
手芸や工作等がしたい	9.3%	3.4%
気軽に悩み等を相談したい	9.3%	4.8%
自分達の情報や意見を自由に交換したい	9.3%	6.7%
その他	4.0%	4.3%

○約7割の人が、自由な時間に気軽に集まれる居場所を望んでいる。平成20年度の調査結果と比較すると、「友達とおしゃべりしたり、くつろいだりしたい」や、「自習やグループ学習をしたい」の割合が高くなっている。

### 3. 悩みや不安があるか

項目	平成20年度			平成25年度		
	15～17歳	18～26歳	27～34歳	15～17歳	18～26歳	27～29歳
勉強, 成績のこと	<b>59.0%</b>	16.1%	1.5%	<b>66.4%</b>	22.9%	2.6%
進路, 将来のこと	<b>78.7%</b>	<b>56.5%</b>	<b>30.9%</b>	<b>71.1%</b>	<b>58.7%</b>	<b>43.6%</b>
異性のこと	9.8%	11.3%	<b>5.9%</b>	7.4%	12.6%	<b>15.4%</b>
友達や先輩・後輩のこと	13.9%	3.2%	5.9%	9.7%	5.8%	2.6%
部活動やサークル活動のこと	12.3%	0.0%	0.0%	13.4%	3.5%	0.0%
自分の健康や身体のこと	15.6%	19.4%	36.8%	8.4%	22.6%	17.9%
家族や家庭のこと	9.0%	29.0%	76.5%	3.7%	11.9%	33.3%
自分の性格や能力のこと	33.6%	<b>37.1%</b>	20.6%	27.2%	<b>27.4%</b>	25.6%
お金や持ち物のこと	<b>19.7%</b>	<b>48.4%</b>	<b>45.6%</b>	<b>11.1%</b>	<b>26.8%</b>	<b>33.3%</b>
仕事のこと	—	—	—	2.3%	28.4%	51.3%
悩みや心配ごとはない	12.3%	12.9%	11.8%	13.1%	10.6%	12.8%
その他	1.6%	9.7%	10.3%	1.0%	2.9%	0.0%

○約9割の青少年が悩みや不安を抱えている。また、15～17歳では、「勉強, 成績のこと」が6割を超えている。

○平成20年の調査結果と比較すると、全年齢を通して「進路や将来のこと」の割合が高いが、特に27～29歳では割合が高くなっている。また、全年齢を通して「お金や持ち物のこと」の割合が低くなっている。「異性のこと」について、15～17歳においては割合が低くなったことに対し、18歳～26歳、27～29歳においては割合が高まっている。

### 4. 一人では解決しにくい悩みや心配事を相談したか

項目	平成20年度			平成25年度		
	15～17歳	18～26歳	27～34歳	15～17歳	18～26歳	27～29歳
相談した	63.9%	74.2%	83.8%	64.8%	70.0%	69.2%
相談したかったが相談できる人がいなかった	4.1%	<b>1.6%</b>	<b>1.5%</b>	4.4%	<b>6.5%</b>	<b>10.3%</b>
誰かに相談しようとは思わなかった	21.3%	19.4%	14.7%	16.4%	12.9%	17.9%
そういう悩みを持った経験がない	9.8%	4.8%	0%	13.4%	7.4%	2.6%

○約7割の青少年が、一人では解決できない悩みや心配事を誰かに相談している。

○平成20年の調査結果と比較すると、18歳以上の青年において、相談したかったが相談できる人がいなかった割合が増加しており、27歳以上においては、約1割の割合である。

## 5. 不良行為の状況（この1年間にしたこと）

項目	平成20年度			平成25年度		
	15～17歳	18～26歳	27～34歳	15～17歳	18～26歳	27～29歳
酒を飲んだり、タバコを吸ったりした	13.9%	41.9%	54.4%	2.3%	43.2% (～20歳 11.1%)	64.1%
けんかで人を殴った	7.4%	1.6%	0.0%	1.0%	2.3%	2.6%
ナイフを持ち歩いた	0.0%	1.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
自転車やオートバイを無断で乗り回した	1.6%	3.2%	0.0%	0.7%	0.0%	0.0%
店の品物をお金を払わずに持ち帰った	0.8%	0.0%	<b>0.0%</b>	0.0%	0.3%	<b>2.6%</b>
人に会うのがいやで、1日中自分の部屋に引きこもった	<b>13.9%</b>	<b>19.4%</b>	<b>13.2%</b>	<b>6.0%</b>	<b>15.5%</b>	<b>20.5%</b>
自殺をすることを真剣に考えた	4.9%	<b>3.2%</b>	5.9%	4.7%	<b>7.1%</b>	2.6%
シンナーや薬物を試みた	0.0%	1.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
家や学校がいやで家出をした	2.5%	3.2%	1.5%	0.7%	1.3%	2.6%
気分がふさいで学校(職場)にいけなくなった	6.6%	8.1%	2.9%	3.4%	8.4%	2.6%
学校(職場)でいじめにあった	<b>3.3%</b>	<b>4.8%</b>	<b>5.9%</b>	<b>1.0%</b>	<b>3.2%</b>	<b>0.0%</b>
学校(職場)でいじめをした	<b>1.6%</b>	<b>1.6%</b>	<b>0.0%</b>	<b>0.3%</b>	<b>0.0%</b>	<b>0.0%</b>
インターネット上で自分の悪口など嫌な書き込みをされた	—	—	—	1.3%	1.0%	0.0%
インターネット上に人の悪口などを書いた	—	—	—	1.3%	<b>5.2%</b>	<b>5.1%</b>

- 全ての年齢で、「人に会うのがいやで1日中自分の部屋に引きこもった」と回答している割合が比較的高く、平成20年度の調査結果と比較し、年齢別にみると15～17歳、18～26歳については割合が減少しているが、27～29歳については約1.5倍に増加している。
- 平成20年度の調査結果と比較すると、平成20年度は未成年で「酒やタバコをのんだ」と回答している割合が高かったが、平成25年度は低い。また、「学校(職場)でいじめにあった・した」割合が減少している。
- 「自殺をすることを真剣に考えた」割合が、平成20年度の調査結果と比較し、18～26歳において2倍以上増加した。
- 「インターネット上に人の悪口などを書いた」と回答している割合が、18～26歳と27～29歳について、5%程度ある。



## 《ひとり親家庭》

### 1. ひとり親世帯になった当時困ったこと

項目	平成20年度			平成25年度		
	母子家庭	父子家庭	寡婦	母子家庭	父子家庭	寡婦
収入がなくなったこと	16.7%	3.3%	10.5%	40.6%	13.9%	36.2%
収入が減ったこと	12.0%	12.1%	10.5%	34.2%	24.1%	43.5%
子どもの世話や教育	<b>18.7%</b>	<b>30.8%</b>	<b>19.3%</b>	<b>58.5%</b>	<b>74.7%</b>	<b>59.4%</b>
家族の世話	1.0%	2.2%	1.8%	1.4%	10.1%	2.9%
家事のこと	1.9%	<b>15.4%</b>	3.5%	5.4%	<b>39.2%</b>	1.4%
自分の健康のこと	5.0%	2.2%	8.8%	13.0%	3.8%	17.4%
家族の健康のこと	2.0%	4.4%	3.5%	3.8%	11.4%	7.2%
仕事のこと	<b>19.0%</b>	<b>13.2%</b>	<b>19.3%</b>	<b>51.4%</b>	<b>40.5%</b>	<b>37.7%</b>
住宅のこと	9.2%	5.5%	3.5%	22.9%	10.1%	20.3%
精神的に不安, 寂しい	10.7%	4.4%	12.3%	23.8%	22.8%	18.8%
相談相手が見つからなかったこと	1.2%	3.3%	1.8%	4.7%	5.1%	5.8%
その他	1.6%	2.2%	0.0%	6.4%	2.5%	2.9%
特にない	1.0%	1.1%	5.3%	4.2%	5.1%	0.0%

○平成20年度の調査結果と比較して、母子家庭、父子家庭、寡婦に共通して、ほとんどの項目において、割合が増加している。

特に、「子どもの世話や教育」、「仕事のこと」について、大きく増加している。

また、母子家庭、寡婦では「仕事のこと」、「子どもの世話や教育」の割合が、父子家庭では「子どもの世話や教育」、「家事のこと」の割合が高い傾向は変わらないが、平成25年度の調査では共通して割合が高い。

### 2. 養育費の取り決めの状況

項目	平成20年度		平成25年度	
	母子家庭	父子家庭	母子家庭	父子家庭
取り決めている	45.1%	<b>2.9%</b>	47.9%	<b>17.5%</b>
取り決めているいない	54.9%	64.7%	50.4%	81.0%

○母子家庭において約5割が養育費の取り決めているしており、父子家庭においては、平成20年度の調査結果と比較して取り決めている割合が高い。

### 3. 仕事と子育ての両立に関する悩み

項目	平成20年度		平成25年度	
	母子家庭	父子家庭	母子家庭	父子家庭
肉体的・精神的に疲れている	<b>32.1%</b>	<b>41.2%</b>	<b>54.0%</b>	50.0%
残業などで帰宅が遅いため、子どもが心配	4.9%	5.9%	12.3%	10.0%
子どもと接する時間が少ない	<b>19.6%</b>	<b>32.4%</b>	<b>29.3%</b>	<b>26.7%</b>
子どもが急病でも、仕事を休めない	<b>13.5%</b>	<b>32.4%</b>	<b>26.3%</b>	<b>33.3%</b>
子どもが急病の際、代わりに面倒を見てくれる人がいない	11.3%	8.8%	14.8%	13.3%
職場の理解が得られない	1.6%	0.0%	3.6%	6.7%
保育所が見つからない	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%
託児の費用が高いため預けられない	0.7%	0.0%	1.1%	0.0%
託児の費用が高いため生活が苦しい	0.5%	2.9%	1.9%	3.3%
その他	5.9%	8.8%	8.8%	6.7%
特に悩みはない	9.7%	5.9%	14.8%	11.7%

○母子家庭、父子家庭に共通して、「肉体的・精神的に疲れている」の割合が最も高く、次いで、「子どもと接する時間が少ない」、「子どもが急病でも仕事を休めない」となっている。平成20年度の調査結果と比較して、ほとんどの項目の割合が増加しているが、傾向は同様である。

### 4. 相談や情報提供に関して希望する支援策

項目	平成20年度			平成25年度		
	母子家庭	父子家庭	寡婦	母子家庭	父子家庭	寡婦
職業や生活に関する相談が1か所で受けられること	<b>22.3%</b>	<b>19.6%</b>	16.7%	<b>38.0%</b>	<b>24.1%</b>	27.5%
身近な場所で就職情報が提供されること	17.5%	11.7%	16.0%	26.4%	12.7%	<b>29.0%</b>
就職のための支援策に関する情報が定期的に得られること	12.6%	7.9%	4.0%	13.4%	8.9%	17.4%
継続して情報を得たり相談できるような登録システム	11.6%	11.7%	<b>24.0%</b>	21.0%	22.8%	<b>14.5%</b>
様々な場所でひとり親家庭の支援策の情報が提供されること	<b>24.2%</b>	<b>31.4%</b>	16.0%	<b>35.4%</b>	<b>44.3%</b>	14.5%
自分で事業を起こす場合に相談や援助が受けられること	4.6%	7.9%	8.0%	9.4%	15.2%	8.7%
その他	1.3%	3.9%	0.0%	2.8%	1.3%	1.4%
特に求める支援策はない	5.9%	<b>5.9%</b>	16.0%	17.0%	<b>19.0%</b>	23.2%

○母子家庭、父子家庭では、「様々な場所で情報提供されること」、「職業や生活に関する相談が1か所で受けられること」を希望する割合が高く、平成20年度の調査結果と比較して割合が高くなっている。

○寡婦では、平成20年度の調査結果では「継続して情報を得たり、相談できるような登録システム」を希望する割合が高かったが、平成25年度調査においては「身近な場所で就職情報が提供されること」の割合が高くなっている。

## 《事業所》

### 1. 女性正社員の就業継続の状況

項目	平成20年度	平成25年度
結婚前に自己都合で退職する	29.4%	23.6%
結婚を契機に退職する	<b>33.1%</b>	<b>27.2%</b>
結婚後、妊娠や出産より前に退職する	15.0%	13.8%
妊娠や出産を契機に退職する	<b>25.6%</b>	<b>21.6%</b>
出産後、育児休業を利用するが、その後1~2年のうちに退職する	7.5%	10.8%
出産後、育児休業を利用して、その後も継続就業する	<b>32.8%</b>	<b>47.5%</b>
出産後、育児休業を利用しないで、継続就業する	9.6%	7.9%
女性正社員はいない	6.1%	10.8%

○平成20年度の調査結果と比較すると、「結婚を契機に退職する」、「妊娠や出産を契機に退職する」割合が減少し、「出産後、育児休業を利用して、その後も継続就業する」割合が約15%増加した。

### 2. 出産・育児に係わる支援制度の有無

項目	平成20年度		平成25年度	
	すでに導入済	導入検討中	すでに導入済	導入検討中
短時間勤務制度	31.7%	11.6%	<b>56.4%</b>	9.8%
フレックスタイム制度	13.3%	13.7%	22.6%	11.1%
始業・終業時刻の繰上げ・繰下げ	29.4%	14.0%	42.3%	13.4%
所定外労働をさせない制度	30.4%	17.1%	43.9%	15.1%
事業所内託児施設の運営	1.7%	3.4%	4.6%	4.6%
子育てサービス費用の援助措置等	3.4%	4.1%	8.2%	5.2%
職場への復帰支援	6.5%	10.2%	11.1%	12.1%
配偶者が出産の時の男性の休暇制度	27.6%	13.7%	<b>44.6%</b>	12.8%
子どもの看護休暇	26.3%	15.4%	<b>45.9%</b>	13.4%
転勤免除	4.8%	4.1%	18.0%	9.2%
育児等で退職した者に対する優先的な再雇用制度	9.9%	15.7%	13.1%	13.4%
子育て中の在宅勤務制度	3.1%	7.5%	5.9%	5.6%

○平成20年度の調査結果と比較すると、すべての項目について増加している。特に、「短時間勤務制度」、「配偶者が出産の時の男性の休暇制度」、「子どもの看護休暇」について、増加率が大きい。